



有明高専だより

第87号

1995. 11



目次

特集 対談「若手教官に聞く」.....	2	全国高専体育大会.....	11
シリーズ「中学校訪問」.....	5	夏期実習.....	12
シリーズ「研究室訪問」.....	6	公開講座.....	13
シリーズ「人物・いま」.....	7	シリーズ「クラブ紹介」.....	14
高専祭.....	8	学生会だより.....	15
九州地区高専体育大会.....	10	プログラミングコンテスト・ロボットコンテスト.....	16

特集 若手教官に聞く

出席者：田畑 智司(一般科目), 石丸 智士(電気工学科), 笹木 昭弘(物質工学科), 小野 聡子(建築学科)
司会：松野 良信(電子情報工学科)

司会 まず、簡単に自己紹介を兼ねて、簡単に自分の専門などお話し願えますか。



小野 専門は建築構造学で、建物に地震が作用したときに、建物の変形や損傷を小さくするアルミ溶射摩擦ダンパーについて研究しています。

田畑 僕の専門は、Humanities ComputingとかCorpusLinguisticsと呼ばれている領域です。

ゴイ ヒンド 語彙の出現頻度パターン、例えば the, and, I, you, of, in, ...といった非常に頻度の高い語彙の出現パターンの統計解析をとって英語のスタイルを分析していく研究です。

石丸 半導体の特性を利用して二酸化炭素の光による還元について研究しています。人工光合成の第一歩と言ったほうがわかりやすいですかね。

笹木 一応生物化学的分野で、殺菌関係です。普通は加熱殺菌が多いんですが、圧力をかけて殺菌しようという感じです。このとき蛋白質などがどんな変化をするのかというのを調べています。

司会 さて、皆さんは来られて数ヶ月から3、4年というところですが、現在の有明高専の印象などはいかがでしょうか？

田畑 そうですね、僕としては、ここへ来る前は学生をもう少し大人として扱うことができるような、いわば大学や短大に近い学風を期待していたのですが、予想とはちょっと違っていましたね。われわれ教員の側が学生を子供扱いしすぎる傾向が強いからではないかと思うんですが、何だか高校みたいで少し寂しい気がします。

司会 期待していたのと違うということですね。まだ来られて日が浅い小野先生はどうですか。

小野 高専は中学校での成績が比較的上位の人が入ってきていると思いますが、少し伸び悩んでいるかなと思います。私たちにも責任があるんでしょうけど特に5年生なんか勉強しなくてもいいと思っているんじゃないかと感じますね。ただし、学生が明るくて礼儀正しいところはいいと思います。

笹木 最初は学生がよく挨拶してくれるという印象がありました。今になってみると上級生はそれほどでもな

いように思いますが…。

石丸 学生のことばかりになってるみたいですが、まあ僕も学生は明るいなあと思いますね。特に進学校とかの場合は2年生後半から3年生にかけてピリピリしたものを覚えるんですが、それがほとんど感じられないと思います。まあ、それがいいのか悪いのかはよくわからないのですが。

司会 高専と大学あるいは高校の雰囲気の違いというのはどのように感じられていますか。

小野 比較するのは難しいと思いますね。

石丸 まあ、比較できなくてあたりまえなのかもしれませんがね。

田畑 そうですね、僕は、彼らの僕らに対する接しかたというのが、非常にフランクで好きですね。授業を受け持っていないくても、高専の学生はいろいろ気楽に話しかけてくれるし。こういった雰囲気はあまり大学にはないでしょう。

司会 特に私たちの場合、タイトルにもあるようにいわゆる若手教官だからかもしれませんね。では若手教官ということで、何か気にされているようなことはありますか。

小野 学生に接するときには、あまり細かいことを言わないようにしています。なんとなく感じとってほしいと思ってます。

笹木 学生に対しては、もう少し言葉遣いに気をつけてほしいと思っています。



石丸 僕は、来て2年になりますけど、まだよくわからないというのが本音ですね。特に高専の場合、15才から20才までいるじゃないですか。かなり幅広いですよ。全部に同じように接するべきなのか、4、5年生は、服も替わることですし、

短大生として接するべきなのか…とかいろいろ思ったりします。

田畑 さっきも言ったように、学生が我々に対して親しく接してくれるので、自分が教員だということはあまり意識してないんですが、何かをやるときにはできるだけ行動で示したいと思っていますね。だから、例えばクラブに

しても、僕は走る以上は学生に負けないつもりで、学生と同じか、あるいはそれ以上の練習をこなそうと思っています。まだ学生気分でやってると言ったほうがいいかもしれませんね。

小野 私は就職して間もないから、どう接したらいいのかわからないんですが、自分自身がまだ学生と感覚が一緒なんですね。だから高専の先生方から「自分も怒られるんじゃないか」とか思いますしね。日頃生活していて、まだあまり気にしていませんが、何かのときには学生の立場に立って考えたいと思っています。ただ、学生と同じになったらまずいと思うことはありますね。

司会 まあ、学生の話ばかりになっちゃいましたが、この辺で皆さんの学生時代の話でもしましょうか。例えば楽しかったこととか、勉強とか遊びとかですね。

小野 私は大学4年までは、進学もあるし、勉強しないとイケないかなと思ってまじめにしてたんですね。でも大学院に入って「それじゃあいけないな」って思ってそこから勉強だけじゃなくて、やっぱり人と楽しくやっていくとか…そういうことも大事だと思ってましたよ。よく遊びにも行ってました。

司会 このような話は、特に進学を考えている人たちにはかなり参考になると思うんですが、いかがですか？

笹木 自分は、小野先生とは違い、1年生から3年生までは比較的遊んでました。3年生の後期ぐらいからは実験とかも忙しくなり、大学院に入ってからメリハリをつけて遊んでたと思います。

石丸 僕は学生のときは遊んでました。ま、勉強もしてましたが…。特に僕はバンドを組んでいたんで、今もときどきやってるんですけど、一種の発散の場であり、生きがいであったなと思います。そういうのがあるから勉強のほうも「やるときはやろう」とやれたんじゃないかと思えますね。

司会 私も、人のことは言えませんが、高専に限らず、なんとなく学生時代をすごしている人が多いような気がします。何か打ち込めることを持ってほしいと思いますね。



田畑 そうですね。僕の場合、高校はスポーツエリートな学校だったし、僕自身もそちらの方向に進むつもりだったわけです。だから2年生の終わりまでは、毎日、練習練習で、遊ぶ余裕なんてなかったですね。毎日20km

くらい走っていると、もう余力なんか残ってないんですよ。しかし高校2年の終わり頃、足の故障のためもう走るだけではやっていけないと判断したんです。そこで次に見つけた目標が大学に行くことだったわけです。それで3年のときはすごく勉強

しましたね。まあ、よくあんなにできたなというくらいに。学校から帰ると、8時頃には床に就き、5時間眠って、夜中の1時から朝まで連続して勉強してましたね、毎日。放課後とかも図書館へ行って勉強してました。そういった具合で、高校時代というのは思い出してみると、走るにしても勉強するにしても、過激にやってたな、という感じですね。まあ、そのぶん大学1年のとき反動が来ましたね。2年ぐらいからはだいたい立ち直りましたけどね。

司会 何か立ち直るきっかけや転機でもあったんですか。

田畑 やはり大学の恩師の影響でしょう。恩師I先生の学問・研究に対する真摯な姿勢から非常に強いインスピレーションを受けました。自分の専門は英語学ですが、non-native speaker ですから、たいていの人は日本人が英語学などやってもどうせ大したことはないと思うのが当然でしょう。しかしI先生は違いました。先生の持論は、我々はハンディキャップがあるがゆえ、常にOED(Oxford English Dictionary:最大の英語辞典)を引きながら一語一語、丹念にテキストを読んで行かざるをえない、しかしそれを繰り返すことで、逆にnative speaker が見落としている言語事実を発見することができる、というものでした。そして、研究に全てをかけて打ち込み、言葉どおりの成果を残されているところに感銘を受けました。もう一つのturning pointは、大学院で自分の研究の方法論に行き詰まっていたときです。そのとき、オーストラリアの大学のB先生が書かれた本を読んで、目から鱗が落ちる思いがしました。幸運にもオーストラリアでその先生の教えを受けることができ、そのおかげで現在の自分の研究分野にたどり着いた感があります。

小野 じつは中学のころから合唱部だったんです。高校時代は独唱コンクールとかでも入賞していました。だから先生たちから芸術系を勧められていたんです。結構考えたんですが、結局今に至ってます。

笹木 自分とはりあえず、生物を扱えるってことで農学部に行きました。で、大学に入って、ちょっとしたきっかけがあって北海道の方に40日ぐらい乳絞りに行ったんですよ。そのときに動物もいいけど、食品のほうがいいかなってことで、大学院で学科をちょっと変えましたね。また、そこでは地獄のような生活でしたが、今思うと根性が養われて、卒論や修論のときに役にたったと思います。

小野 そう言えば、私の最近のturning pointとしては、やっぱり阪神大震災ですね。一応被災地域に住んでいま

したし。それまでは結構物質主義だったように思うんですけど、神戸の人たちを見てたら、心理的な面で考え方とか変わりましたね。地震のあった日なんか、カップラーメンさえ買えなかったんですよ。たまたま大学の生協にあったから私は買えたんですが。テレビとかで見てたら、神戸の人たちとかは何も食べてないんですよ。それを見ていたらカップラーメンでも涙を流して食べましたよ。たかがカップラーメンなんですけど、それでもありがた…売ってなかったですからね、近所でも。それと建築構造学を研究しているものとして、この地震は考えさせられることがたくさんありました。

司会 石丸先生は、一度企業に入ってから来られたわけですが、特に turning point としての企業から高専に来るきっかけなどは。

石丸 大学4年生のとき、まだ研究を続けたいと思ったんで大学院へ進学し、半導体の研究を続けました。会社に入ってからそんな研究をしたいと思っていました。会社ではLSIの回路設計の仕事に就き、3年間やってそれなりに満足していました。成果もあったのですが、大学時代の研究をさらに続けたいとも思っていて、そんなとき大学の恩師から、「有明高専で教官を探しているのだけど、行ってみないか」と連絡があり、今この場にいるところなんです。

司会 高専に来てよかったと思っていますか。

小野 まだよくわからないですね。

笹木 知り合いが増えたというのはよかったですね。学生も含めて、先生たちの横のつながりも増えましたしね。

石丸 クラブ活動の顧問もはじめは大変だなと思ってたんですよ。でも最近特に感じるんだけど、やればやっただけ成果があらわれるというのがやって面白いですね。やなことありますけど…。ただ時間的には取られるから大変だけど、それなりの得るものはあるような気がします。

田畑 しかしクラブが本当に活発だという感じはあまりないですね。ただなんとなくやっているという感じの人がかなり多いでしょう。なかにはすごく意識の高いクラブもあるけど。僕は高専のクラブの場合、学校教育の一環であるべきだとは思っただけけれども、この年代でやるスポーツは、もっとチャンピオンシップに徹してもいいような気がします。強いプレッシャーの中で試合やレースに臨んで、その重圧を克服することの醍醐味を味わってもらいたいというか。娯楽でやるスポーツはこれから先、何才になってもできると思うんですよ。チャンピオンシップのスポーツができるのは人生の中で比較的短い限られた期間だけです。

小野 私は茶道部の顧問なんで運動部とは違うかもしれませんが、茶道にしてもいろんな段階があるんですよ。ただクラブに出てきてやってるだけじゃなくって、せっかくやっているなら、何か取得するつもりでやったらど

うかなと思います。クラブにあまり顔出してない者がコメントしてすみませんが。

司会 最後なんですけど、将来の有明高専にはどのような姿を期待されていますか。

石丸 まず、周りからどのような姿が望まれているのかわかりませんね。高専の内部からではなくてですね。でも現状はすごく中途半端だと思います。高校でもないし大学でもないし。本当はどちらでもなくて、独自の方向を作ればいいと思うんですが、現状ではそういった方向に進めるのかな…と思います。まあ難しい問題ですね。

小野 せっかくなら地域に何か提供できる形がいいと思いますね。一般の学生だけではなくですね。もっと地域に根ざしたというか、開かれたというか。大学院とかだと社会人入学とかも結構ありますよね。

田畑 僕も同じ意見なんですけど、それに加えて言うなら、海外からの学生をもっと増やしたら活性化につながると思いますね。どうしても日本の学生ばかりだと、甘えてしまうじゃないですか。だから喝を入れるという意味でも、極端な話3割くらい留学生がいてもいいんじゃないかと思います。だから、もっと地域の人々や社会人にも門戸を開き、海外にも門戸を開く、するといろんな人がいることになり学校が活性化されるかもしれませんね。

小野 そういう人を受け入れるための枠を作ってもいいと思いますね。

笹木 自分としては、もっと普通高とかからも、もっと編入を入れてもいいと思いますね。高専の場合、試験と試験の間が長いので短気集中型なんですよ。試験前だけやって、終わったら忘れてしまうとか。だから、違う勉強のやり方をやってきた人、特に社会人の人とか、集中力を持続させる人たちを入れることで、高専の学生も刺激になるんじゃないかなと思います。

司会 そうですね。ただ中学校からの単なる進学先としての位置付けとしてではなくてですね。本日は貴重なお話をどうもありがとうございました。



シリーズ

中学校訪問

南関中学校 (南関町)

Q まず、南関中学校の沿革からお話をお願いします。

A 本校は、昭和22年の学制改革で旧南関中学校外4中学校の創立に由来し、昭和37年に南関北・南関南の2中学校に統合されました。昭和61年、生徒数の減少により現在の南関中学校に再統合され、今年統合10周年を迎えました。現在、生徒数461人、学級数13と中規模校として適性規模になっています。



Q 次に、目指している教育目標についてお聞かせください。

A 学校運営の方針として次の2点を大きな柱にしています。
1. 子供を中核にすえた学校運営に徹しています。学校教育には、当然のことながら子供の存在があります。学校運営の中核をなすものは子供であることを常に念頭におき、全職員が一枚岩になって教育に当たっています。

2. 学校教育に求められているものへの対応に努めています。物質主義がもたらす自己中心的行動、わがままから起こる「いじめ」などの心の荒廃や学校環境への不適応などによる「不登校」問題など解決すべき課題に対する取り組みに努めています。この2つの方針をふまえ、子供や地域の実態に応じて次のような教育目標を設定しています。

自他を敬愛する人間性と創造性を培い、主体的に学ぶ、心身共にたくましい生徒の育成を目指す。

そして、求める生徒像を次の4点においています。

- ① 目標をもって自ら学習に励む生徒 (知)
- ② 心豊かで思いやりのある生徒 (徳)
- ③ 正しく判断し、行動できる生徒 (意)
- ④ 運動や勤労に励む生徒 (体)

Q 南関中学校の特徴と一言でいえるのでしょうか。

A 地域性と思われそうですが、子供たちは大らかで素直です。やや積極性は欠くものの何か目標が定まると何事にも一生懸命に取り組みます。それだけに、先生方も一生懸命で学習面でも、部活動面でも高い目標をもって生徒と一緒に頑張っています。また、保護者の教育に

対する関心が高くいろいろと要求もされますが、学校行事など側面から積極的にご協力いただいています。先日、学校周辺の除草作業を保護者のみなさん全員の手で行っていただきました。

Q 部活動の状況はいかがですか。

A 本校の部活動は、生徒と教師が楽しくふれ合い活動できる場であり時間なのです。それだけに、全生徒、全職員が参加し、地域のみなさんの指導・支援も得て楽しく、きびしく頑張っています。そこには単に体育・文化活動を促進するのではなく、心身とも明るくたくましい健やかな生徒を育成し、挨拶・礼儀など基本的な生活習慣を定着させることを目標にしているのです。今年の中体連では、ソフトテニスとバスケットが2位に入賞するなどいい成績をおさめています。

Q 中学生の考え方・行動で最近変わったなと思うことがありますか。

A 社会環境の変化にともなう変化があるように思います。例えば、受験に必要な科目しか勉強しないという受験中心のものの考え方をしたり、何か悪いことをしても、なぜ悪いのか、そのことがどれほど迷惑をかけているのかわからないといった生徒が増えており社会規範教育が必要になっています。また、服装やその他の場面で自由意識の混乱が見られるようです。

Q 最後に、有明高専の印象、要望についてお聞かせください。

A ハイレベルの学校という印象があり、受験希望の生徒・指導教師に頑張らねばという意欲を喚起しています。体験入学は、学校の内容がよくわかると好評で、毎年10名程度希望しています。

九州自動車道を横切るトンネルを植木方面に抜けてすぐ右手100mほどの高台に、緑に囲まれた白い清潔感あふれる校舎が見えています。校門からきれいに手入れされた校庭を進むと左手中央に昇降口があり1階に1年教室、特殊学級・美術・視聴覚教室など、2階に2年教室、職員室、家庭・音楽教室、図書室があり、3階が3年教室と理科教室になっています。どの教室も塵一つなく、子供たちも明るく元気のいい挨拶を交わしてくれました。ご多忙なか、心よく応じていただき、終始笑顔でお答えいただいた本山健一校長に感謝申し上げます。

(8月21日訪問 聞き手 川上 龍男)



シリーズ

研究室訪問

塚本 俊介
(電気工学科)

パルスパワーを説明してください。

一言で言うと人工雷ですが、それよりも短い時間で放出する大電力をパルスパワーと言います。例えば、一般的な使い方ドライヤー(1000W)を10分間使った場合、 $1000 \times 600 = 6 \times 10^5$ Jとなります。一方、雷が100万Vで1万Aの電流を流しても寿命が $10 \mu s$ とすると、 $10^6 \times 10^4 \times 10^{-5} = 10^5$ Jとなり、計算上はドライヤーのほうが6倍も大きくなります。しかし、雷がドライヤーよりパワーが弱いと思う人はいないでしょう。それは時間が極端に短いので、瞬間的なエネルギーが大きくなって雷はすごいわけです。パルスパワーは雷よりもさらに時間が短く、数十n(ナノ・ 10^{-9})sの時間幅で利用しています。そうするとエネルギーが小さくても瞬間的には非常に大きな仕事ができることとなります。

この研究を始めたきっかけをお話ください。

パルスパワーの研究は十数年前から始まった比較的新しい研究分野です。私は従来から高電圧に関する研究に取り組んでいたところ、学会でパルスパワーの研究発表を聴いて興味を持ちました。そして、熊本大学ではこの研究が盛んに行われているので、研究に参加しました。

どのような研究に取り組んでいますか。

パルスパワーを用いた研究分野は広く、多くのテーマがありますが、私は大気環境浄化の研究に取り組んでいます。具体的には自動車や発電所から出る排気ガスに含まれるNOx・SOxをパルスパワーを用いて無害な物質に変えていこうという研究です。このことは直流放電でも

可能なんです、パルスパワーではパルス幅が短いので効率の高い仕事ができると言われています。しかし、電氣的なもの以外に化学反応についての理解が要求されるので、その辺で苦労しています。

現在までの研究状況と今後の課題をお話してください。

パルスパワーのこれまでの主流はコンデンサーを主とした容量性ですが、これは装置が大きくなります。私たちが取り組んでいるのはコイルを利用した誘導性で、小型化が可能です。誘導性は容量性に比べパルス幅も短く、より効率的ですが、単発動作が欠点です。連続的に発生させるために、連発装置の開発に取り組み、現在では6Hzまで成功しています。今年度は10Hzを目指して装置の製作を行っています。これが今年の卒業研究のテーマの一つです。また、もう一つのテーマでは、実際にパルスパワーを用いて排ガス処理を行うことを目標に放電管などの製作に当たっています。

これら2つのテーマに4人の卒研究生が現在取り組んでいます。

卒研究生へ一言。

パルスパワーの研究に関する文献の多くが英語で書かれています。英字の論文を読んで内容を理解するしかない、苦しいけど頑張ってほしいと思っています。また、近い将来パルスパワー発生器を搭載したクリーンな排気ガスの車が公道を走る日がくることを夢に描いてほしいと思います。

先生の研究により大気がきれいになることを期待しています。本日はありがとうございました。

(聞き手 松岡高弘)



共同研究者の河野先生(左)と製作したシールドルーム



パルスパワー実験室、左側が発生装置

シリーズ 人物・いま

「芸術の秋」である。そこで今回は、復活した美術愛好会の顧問坂西先生と趣味の日本画で何度となく受賞しておられる木下技官に登場してもらった。

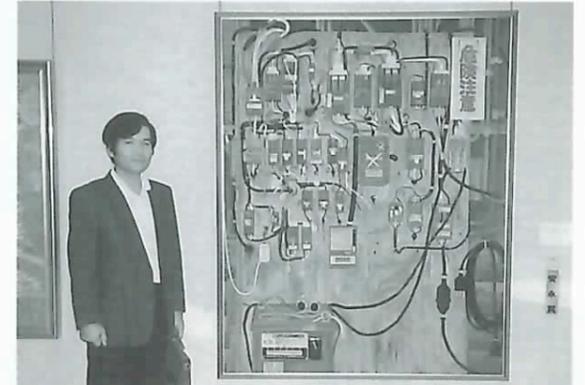
一般科目 坂西 文俊

実習工場 木下 正作



私は、職業柄、数学においては、この定理はすばらしいとか、うーんうまいと思わずうなずいてしまう証明方法などに出会ったことはありますが、絵を見て、背中がぞくぞくして鳥肌がたつほど感動したという経験は、まだありません。もちろん、これは世の中にすばらしい作品が存在しないということではなく、私の感性が貧相で、まだそれらのすばらしさを感じるまでになっていないということで、大半の子供がクラシック音楽の良さをまだ理解できないのと同じことだと思います。しかしそれでも、これはいいなとかこれは好きだと思える美術作品はあります。思い付くまま羅列してみますと、光と陰を追求したレンブラント、壮大な交響楽を思わせるモネの水蓮、ダ・ビンチとミケランジェロ全般、古代ギリシア時代の彫刻、フィッシャーのトリッキー性、水墨画の幽玄性、ロココの華麗さ、北斎の構図、ルノアールの明るさ、スーパーリアリズムの写実性、ウォーホルのポップアート、はては、江口寿史や星野之宣のマンガの絵、世界ふしぎ発見というテレビ番組のセットに置かれているマルス像などなどです。結局、私の美術観は、「美術は何でもありでいい」程度のレベルでしかありません。

さて、本校の美術部は、数年前部員がいなくなり消滅しました。私は、高校時代美術部でしたので、このことが非常に悲しく残念でしたが、電子情報工学科の森先生も、美術部の存在を希望していると知り、学生にも賛同者がいましたので、本年度、美術部は愛好会として復活しました。タイムリーにも、今年大牟田にオープンしたネイブルランドというテーマパークから市内の高校に、外壁の壁画を描きませんかというお誘いがあり、復活記念に手掛けてきました。現在、高専祭に向けて作品を製作中です。



Q 今回も福岡県美術展会員の部で町工場の配電盤を描いた作品で入賞おめでとうございます。ところで、どのようなきっかけで日本画を描くようになったのですか。

A 師の小川先生の初個展を見に行って、花鳥画のなかに何かはりつめたような緊張感と気品を強く感じたことを覚えています。また師の繊細な描写に魅了され、すぐ入門させていただきました。

Q 日本画の好きな点はどのようなところですか。

A 日本画は岩絵具か水干絵具をにきわで溶いて描いていきます。特に岩絵具は、色が鮮やかで強いのですが、重ねて描いていくほどしっとりとした深い雰囲気を出すことができるのが好きです。私はまだ未熟ですが。

Q 今までに農家の軒先のトウモロコシを描いた『晩秋』(県知事賞、平成元年)、同材、同名での作品(国民文化祭文部大臣奨励賞、平成6年)や、瀬高清水観音の大わらじを描いた『祈願』(県美術協会賞、平成2年)、その他軒先の大根や椎茸など日本の古くからある生活に根ざしたものに目が向けられていますが、特に思い出深い画がありますか。

A やはり県知事賞をいただいた『晩秋』でしょうか。数年前の11月、阿蘇に行って農家の軒先に吊してあったトウモロコシを見たとき、強い衝撃を受けました。街でサラリーマン生活をしている私にとって、それがすごく新鮮で、忘れかけていた季節感や自然を感じ夢中でスケッチをしたことを今でもはっきりと覚えています。

Q 今後の抱負をお聞かせください。

A 田舎のほうも最近では描きたい画材が見つからないので、今後は市内の工場など身近にある見過ごされがちな物にも目を向け、見る人に懐かしさや温かきを感じてもらえるような絵を描いていきたいと思っています。

第20回 高専祭

高専進化論



● 学生会長あいさつ

51 荒山 和子

行事のたびに言われ続けた「会長は雨女」という汚名を晴らすすばらしい秋空に恵まれ大変うれしく思っています。4・5年生にとっては最後の高専祭になりました。高専時代の良き思い出として残れば幸いです。3年生のみなさん、次はあなたたちが主役です。わが校の伝統ある高専祭に自信と誇りをもって挑んでください。

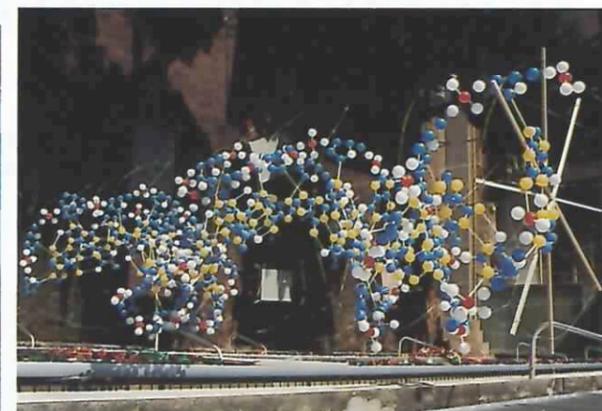
● 実行委員長あいさつ

5M 西田 和馬

今回は、第20回という記念すべき高専祭ということもあり、前回までとは違う工夫が随所に見られ、みなさんにも満足していただけたと思います。当日は天候にも恵まれ、多数の来校者があり、喜んでいます。2年後の第21回高専祭も、今回の経験を生かして成功させてください。



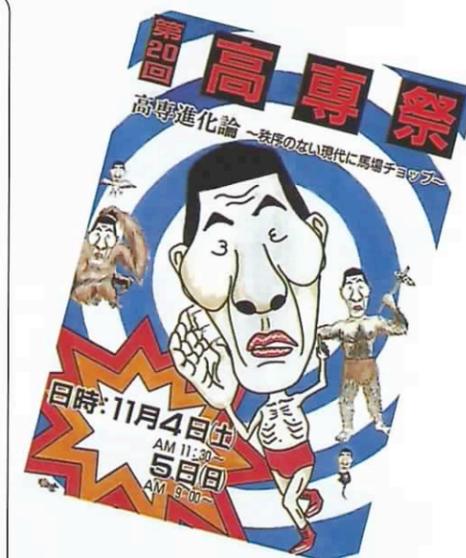
～秩序のない現代に馬場チョップ～



OBセミナー

高専祭恒例になっているOBセミナーは、今回、歴代の学生会長5人に来てもらって行なわれた。話のテーマはいくつかある中からダーツで選ぶという方法が採られ、最初から恋愛の話になり盛りあがった。

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 出席者 | 第21代会長 笠原 信吾 (A13期) |
| 第10代会長 山本 芳裕 (C7期) | 第28代会長 太田黒庸行 (C25期) |
| 第15代会長 田山 英樹 (A7期) | 第30代会長 武下 浩紹 (M27期) |



文化講演

講師 / 新美 彰 (にいみ あや)
演題 / 「わたしのフィリピン物語」

今年は戦後50年に当たります。そこで、フィリピンで数々の悲惨な体験をされ、78才の現在も「戦争の語り部」として求めに応じて講演をされている新美彰さんに来ていただいて、お話をうかがった。お話の途中、遠くで爆竹があった。そのとき新美さんはびっくりされ、「爆弾かと思った」と言われたのが印象的であった。それから、「原爆をどう思われますか」という学生の質問に、「もっと早ければ、あんなにたくさんの方が死なずに済んだのに」とも言われた。最後に、フィリピンからの留学生ロベルト君が花束を渡したとき、絶句され、涙にくれたのが印象的であった。



九州地区高専体育大会・熱気あふれるプレー!!・全国高専体育大会

■第32回九州地区国立工業高等専門学校体育大会成績 7月21日(金)~23日(日) 主管校/八代高専 担当校/都城高専・鹿児島高専

<八代高専担当種目>

- ◎陸上競技 総合3位
男子 4×100m・R 3位
(4C重行・1E山田・5C田中・4I山田)
走高跳 1位 5I松尾
3位 4I山田
女子 やり投 3位 4I山田
800m 2位 1A前田
4×100m・R 3位
(3I磯田・2C武末・1A前田・3A宇都宮)
砲丸投 3位 4A井上
- ◎水泳 総合3位
男子 200m平泳 1位 4E米田
100m平泳 1位 4E米田
400m自由形 2位 2M安松
100m自由形 3位 5A中川
100m背泳 3位 3E田中
400m・R 3位
(3E田中・4E米田・1E北島・5A中川)
400mメドレー・R 3位
(3E田中・4E米田・2M安松・5A中川)
- 女子 100m自由形 2位 1C中尾
100m平泳 3位 3C大淵
50mバタフライ 3位 3C瀬戸
- ◎ソフトテニス 団体戦 予選リーグ敗退
- ◎バドミントン 団体 準優勝

- 個人 女子ダブルス 優勝 5A平田・3A永松
女子シングルス 準優勝 3A永松

◎ハンドボール 準優勝

<都城高専担当種目>

- ◎硬式野球 準優勝
- ◎バスケットボール 準優勝
- ◎卓球 団体 準優勝
個人 男子ダブルス 優勝 5E坂本・3A鍋田
- ◎剣道 団体 予選リーグ敗退
個人 3位 5A大塚

<鹿児島高専担当種目>

- ◎サッカー 2回戦敗退
 - ◎柔道 団体 予選リーグ敗退
個人 60kg級 優勝 3M馬田
 - ◎バレーボール 予選リーグ敗退
 - ◎テニス 団体 予選リーグ敗退
個人 女子ダブルス 3位 5I原・5I西山
- アンダーラインは、全国大会出場

■第25回西日本地区高専弓道大会成績 7月20日(木)~21日(金) 主管校/鹿児島高専 予選敗退

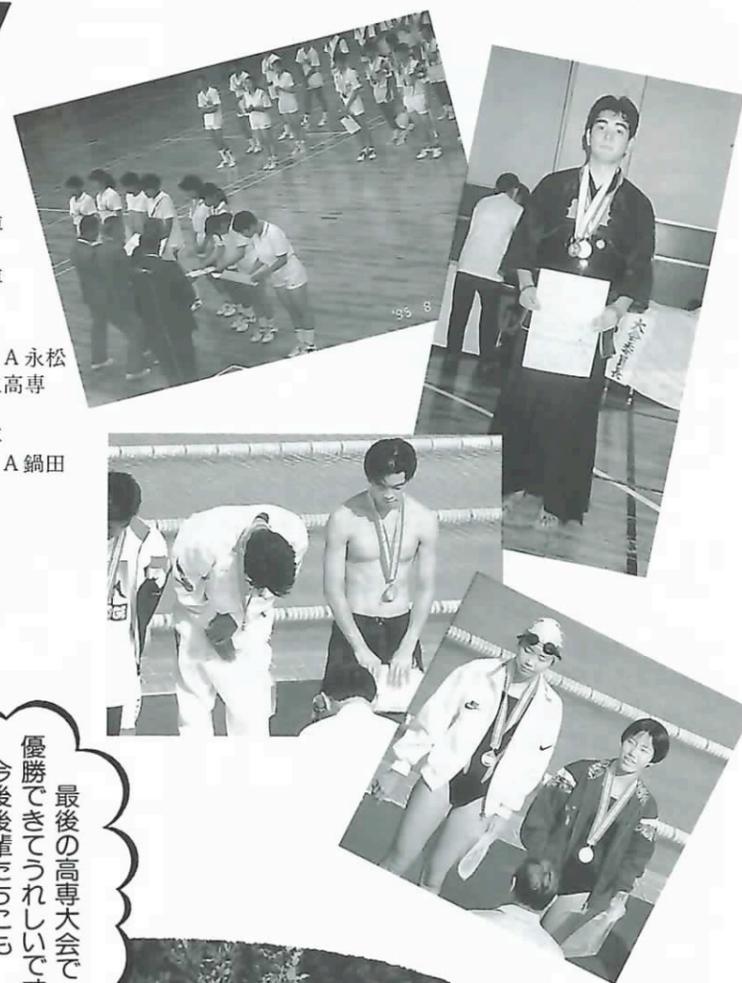


■第30回全国高等専門学校体育大会

- ◎陸上競技 8月6日(日) 開催校 群馬高専
女子 800m 3位 1A前田
- ◎バドミントン 8月5日(土)~6日(日) 舞鶴高専
男子団体 予選敗退
女子シングルス 準優勝 3A永松
女子ダブルス 優勝 5A平田・3A永松
- ◎ハンドボール 8月3日(木)~4日(金) 大阪府立高専
予選敗退
- ◎卓球 8月9日(水)~10日(木) 小山高専
男子ダブルス 3位 5E坂本・3A鍋田
- ◎剣道 8月6日(日) 育英高専
男子個人 優勝 5A大塚

■第1回全国高専水泳競技大会

- 8月5日(土) 主管校/奈良高専
男子100m平泳 3位 4E米田
女子100m自由形 3位 1C中尾



最後の高専大会で優勝できてうれしいです。今後後輩たちにもがんばってもらいたい。
5A・大塚 誠

昨年に続き優勝できて幸せです。今はほっとしています。
5A・平田宏美

三連覇をめざして来年もがんばります。
3A 永松瑞穂



夏期実習

トヨタ自動車を実習して

4M 庄山 義則

実習テーマの内容は、今まで5000回転までしか回転させることができなかったMC(マシニングセンタ)のスピンドルを今回新たに20000回転まで回転するスピンドルを開発したので、その評価をすることであった。

高速スピンドルの開発が望まれる理由は、スピンドルが高速になると加工精度も良くなり工具の寿命も長くなり加工時間も短縮できるからである。自分の評価するスピンドルは、指導者の方が自ら企画、設計、製作された一次試作品だった。最初の試作品だったのでどうなるか不安だった。データは、振動、騒音、温度の三つのデータを取った。10000回転までは何も問題なく回転数を上げることができたが、12500回転になると、急に振動、温度ともに急上昇した。そこで、原因を調査した結果、ならし不足と判明し徐々に回転数を上げて実験することになったが、また、予想以上の振動が発生したため、工場内にある他社のMCと比較してみるようになった。その結果、他社のMCの振動が少なく、波形も理想の形をしていた。どうしてこんなに性能が違うか指導者の方に聞くと「冷却装置が違う」と原因も分かっておられた。それでは、なぜ冷却装置を換えないのかと聞くと、「今の構造のままで20000回転させるのが、技術屋だ」という答えに、技術屋のロマンを感じ、そして惚れた。

しかし、実習が終わる2日前には、13000回転まで上げることができた。が、急に振動、騒音が激しくなり急停止して、今度は原因を詳しく調べるため分解することとなった。しかし、分解してしまったところで、夏期実習は終わってしまった。

5000回転から20000回転に上げるだけの一見簡単そうに見えた開発も十数年という経験と知識をもってしても達成するのは容易ではないことに驚いた。そして、技術屋というものは、他に追いつくのではなく、こだわりをもって他よりいつも高いレベルを目指していることに感動し、自分もあらゆる面において現状に甘んずることなく高いレベルの目標を決め、充実した学生生活を送っていきたくと思った。



三井ホームで実習して

4A 入澤 佐紀

7月24日から29日までの6日間、博多にある三井ホーム株式会社九州支店福岡営業所で実習を受けた。この九州支店は、営業課・営業設計課・工事課・事務管理課・カスタム課に分かれ、主にツーバイフォー住宅の受注・設計・施行を行っている。

まず初めに、会社概要の説明があり、三井ホームは注文住宅だけでなく、都市開発や住宅開発・アメニティなど多くの事業を展開していることや、さまざまな分野の関連企業があることがわかった。

研修の日程は、設計の日と現場の日に分けられており、設計では、積算の計算の仕方や住宅を設計する際のポイントを学んだ。内装を決めるときに使うクロスや障子、ミニサイズのトイレなどを使って、自分たちでトイレの内装を考えたり、モデルハウスの見学に連れていっていただいたりして、壁や床の色・インテリアの違いでさまざまな豊かな空間ができることを学んだ。

現場では、工事課の方について一緒に現在施行中の住宅を見て回った。ツーバイフォー工法では2インチ×4インチの材を使うので、柱や梁を組むときに釘を使用するのだが、この釘の多さには驚かされた。大工さんとも直接話をすることができ、炎天下で働く大変さを感じることができた。

今回の実習は、6日間という短い期間だったが、一つの住宅でも、設計から施工まで多くの社員の方や職人の方の仕事によってできることがわかった。インテリアコーディネーターの方の仕事の様子や備え付けの家具をつくる下請け会社の工場見学など、学校の授業だけでは学べないようなこともたくさん知ることができた。この実習での経験をこれからの学校生活に生かしていきたいと思う。



公開講座

★ 楽しい電子工作教室

期日：平成7年7月24日～7月25日

対象者：中学生 参加者：23名

ハンダが下手だったけど指導を受けてから上手になった。先生たちは、やさしく、親切に、わからないところを教えてくださいました。(腹栄中学3年生)

シフトレジスタの説明がわかりやすかった。電子回路はプログラム作りに似ていると思った。

(山川中学3年生)



★ たのしい化学実験講座

期日：平成7年7月26日～7月27日

対象者：中学生 参加者：19名

教科書についてるけど実際には実験できなかったことができて本当に良かった。実験で手が試薬で染まっても嬉しかった。高専生の皆さんもやさしく、わかりやすく、おもしろく指導してもらい驚きや感動の連続で充実した2日間でした。

(柳城中学3年生)



★ 災害に強い住まいの構造

期日：平成7年7月25日～7月29日

対象者：一般社会人 参加者：10名

建物についての知識経験に乏しくただ業者を信用するしかないのが一般市民の実態です。公共建築工業は役所の監督がありますが、個人の建物については、手抜きや災害に耐えられるか不安が残ります。地震の対応、基礎の問題などいろいろ勉強させていただきました。

(60才女性)



★ パソコンお絵かき講座

期日：平成7年8月7日～8月8日

対象者：中学生 参加者：28名

小学生の頃、パソコンで何度か絵を描いたり、問題を解いたりしたけれど、色を使って描いたのは、今度が初めてだった。鮮やかに塗ったり、ぼやかせたり、いろんな模様が一瞬に描けて楽しかった。また参加したい。

(米生中学1年生)



シリーズ クラブ紹介

今回は団体競技の野球部と個人競技のソフトテニス部の紹介です。野球部の安藤大之君(5A)とソフトテニス部の柿原崇君(5M)に練習のようすなどを学生会長の荒山和子さん(5I)にインタビューしてもらいました。

荒山 現在の部員数とどういった練習をしているのか教えてください。

安藤 野球部はマネージャーを含めて約40人います。練習内容ですが、シーズンオフにあたる秋から冬にかけては筋力トレーニング、走り込みといった基礎体力をつくるためのトレーニングを行っています。高野連が解禁となる3月からはバッティングなど試合形式に近い練習をします。夏場は試合形式の練習をします。



柿原 ソフトテニス部は男女合わせて30人近いです。練習内容は、日が長いうちは主に基礎練習をやっています。日が短くなると筋力トレーニングや走り込みが主になります。高専大会前は試合形式の練習をします。

荒山 キャプテンをしていて良かったと思ったこと、つらいと思ったことはありますか？

安藤 良かったと言えば就職試験ですね。人事の方に驚かれました。つらかったことは、部員全員の責任をいつも背負っていたことでしょうか。部員のだれかが悪いことをしたら自分の責任だと思っていましたから。



柿原 良かったことは自分の指示に従ってみんながついてきてくれたことです。まとめるのは好きなほうだから…。つらかったことは試合のメンバーを決めるときですね。試合に出場できる人数は決まっているので、レベル的にあまり差がない部員のなかから選手を選抜するときがとてつらかったです。

荒山 一番印象に残る試合は？

安藤 やはり今年の九州地区高専大会ですね。

荒山 話によると逆転サヨナラ負けだったとか。

安藤 はい、勝利を確信していましたけど…。

柿原 僕も同じですね。特に団体戦は、今までのなかで一番盛り上がった試合でした。みんなで励まし合ったりしていい試合ができたと思っています。

荒山 負けている試合で、キャプテンとしてやったことは？

安藤 やっぱり負けているときって、ベンチのなかが暗くなるんですよ。

その様子を見ると自分だけでも元気を出さないとって思うんです。それで元気を出したんです。そうしたらみんなついてきてくれました。

柿原 ある団体戦でここで負けたら終わってしまう試合で負けていたとき、励ましたり、雰囲気明るくしてプレッシャーをかけないようにしたりしていました。自分でも気楽にプレーしていました。

荒山 クラブの魅力は何ですか？

安藤 あえて言うなら縛られないところですね。

柿原 クラブは人間関係について学ぶ絶好の場だと思います。

荒山 部活動で学んだことは？

安藤 正直言って今はあまりわかりません。だけど、これに気がつくときが近いうちにくると思います。多分、これからの人生で役立つことを学んだと思います。

柿原 僕も同じです。

荒山 後輩へのアドバイス、激励の言葉をどうぞ。

安藤 練習をしているときとしていないときのけじめをはっきりつけて、もっと強い有明高専野球部になってください。期待しています。来年こそ、目指せ九州制覇!!

柿原 部員の数も以前より増えクラブ内での競争が激しくなると思うので、みんなに負けないで練習してほしい。そうすればきっと強くなると思います。来年こそ…。



英語弁論大会

3A 村上 江里

第28回九州地区国立工業高等専門学校英語弁論大会が7月27日、北九州高専で行われました。弁論大会は、レシテーション(1・2年生対象で、英文を暗唱する)の部と、スピーチ(上学年が主で、自由な題材について7分以内で暗唱する)の部の、2つの部門に分かれています。本校からは、レシテーションの部に1Cの川上君と松元君、スピーチの部に私が参加しました。審査はネイティブ2人と日本人1人によって行われ、あらゆる点から評価されます。

優勝はレシテーションの部が熊本電波高専、スピーチの部が北九州高専の方でした。私たちは3人共初めての参加で、大会のレベルが予想以上に高く、入賞することはできませんでしたが、弁論大会に参加することで、日頃思っていることを公衆の面前で発表するという貴重な体験ができました。大会前日には、ホテルで懇親会が開かれ、他の高専の学生との交流を深めることもできました。

来年は熊本電波高専で行われます。ぜひみなさんも参加してみてください。参加することによって得るものは大きいです。



漫画甲子園に参加して

3C 古川 恵子

7月29、30日高知県ぢばさんセンターで、第4回全国高等学校漫画選手権大会(漫画甲子園)が行われました。昨年は惜しくも選通過はできませんでしたが、今年は、「お手本」というテーマで予選に応募して見事参加275校中、本選出場の30校内に入ることができました。

本選1回戦のテーマは「出会い」でした。簡単なようで非常に難しいテーマでした。5時間半という制限時間のなかで、失恋した青年が海へ身投げしたところ、海のなかで人魚と出会う、という2コマ漫画の作品を描き、なんとか決勝戦に進出することができました。決勝戦のテーマは「ニューメディア」というテーマで行われました。これもまた非常に難しいテーマで、残念ながら上位6校への入選はなりませんでしたが、しかし、決勝15校に残ることができたというだけでも、私達にとっては大健闘だったと思います。

第28回四高専吹奏楽部合同演奏会

酷暑のなか、今年も四高専(久留米、北九州、大分、有明)の吹奏楽部員が一同に集い、平成7年8月1日(火)、18:00より久留米石橋文化センターで合同演奏会を催しました。

今回は、合同演奏会名物の全部員総出演の大編成バンドによる演奏が部員の増加とステージの広さの関係で実施できなくなりましたが、選抜メンバーによる質の高い演奏を目指して3部構成のステージを創りあげました。また、事前合宿においては、暑さと戦いながら、他高専の部員たちと寝食を共にして友好を深めるとともに、6日間にわたるハードな練習をこなしました。

当日は、本校からも教官の方々や遠路駆けつけてくださり、部員たちも感激していました。オープニングのオリジナルステージで荘厳に幕を開けた演奏会は2部のポピュラーステージで一転して華やかになり、最後のクラシックステージで最高潮の盛り上がりを見せて無事終了しました。500名あまりの観客のみならずからも温かい拍手をいただきました。演奏会終了後の部員たちの間に広がるあの誰かが心からありがとうと言え、素直に泣ける独特の何ともいえない雰囲気が今年もさわやかに感じられました。あの瞬間の心の透明感を感じられるだけでもこの演奏会の価値はあるのではないのでしょうか。来年は大分の地で開催の予定ですが、合宿場所の確保などの困難な問題を抱えています。四高専の吹奏楽部員の音楽に対する情熱で演奏会を成功させ、来年もあの感動を味わってほしいものです。



プログラミングコンテスト

9月30日、10月1日函館市において「全国高等専門学校第6回プログラミングコンテスト」の本選大会が課題・自由・競技の3部門で行われた。本校からは自由部門の「Hyper Book ～次世代コミュニケーションシステム」と競技部門の「禁じ君と開店君」が務選を通過し、この本選に出場した。

自由部門は初日にプレゼンテーション審査があり、2日目にはデモンストレーション審査が行われた。Hyper Book はネットワークを利用するメディアとして審査委員にも評価され、最優秀賞・優秀賞に続く審査委員特別賞を受けることができた。また競技部門は、ビデオカメラで取り込んだ映像から物体の体積を測定し、その精度と速さを競うものだったが、本校チームは惜しくも準決勝進出は果たせなかった。ちなみに次回(第7回)は北九州で行われる予定である。



ロボットコンテスト



■5M 武藤 彰男

私たちの最初の対戦相手は強豪の久留米高専でした。試合は、予想していたとおり激しい競り合いとなった。だが、時間切れ寸前に、相手のボールがゴールに入り万事休す。私たちは惜しくも負けてしまった。私は「あそこでああしておけば」という操縦者としての悔しさで一杯でした。しかし、その悔しさは、落ち着いてくると、満足感に変わっていった。なにせ、4人だけでここまで来たのだから。私たちは全国の舞台に立てなかったが、夢を後輩に託すことにしよう。

■4E 石橋 英紀

私は、過去2度ロボットコンテストに出場しているが、2度とも勝つことができなかった。今年はそのときの反省を生かして、完成度の高いロボットを作ることができた。しかし、負けてしまった。だが、メンバー全員が自分の役目を確実にこなし、技術的にも精神的にも成長した形で試合をすることができ、満足している。



美術愛好会がネイブルランドの外壁に描いた壁画

・編・集・後・記・

高専祭も終り、学校も静かさを取り戻してきた。この秋は行事が目白押しであった。10月15日は都城で九州地区ロボットコンテスト、10月28日は本校が地元の小・中学生を対象に行なうロボットコンテストの説明会、10月29日は学校説明会、10月31日は「秋の保護者懇談会」と銘打って保護者を対象に学校の現状説明。そしてとどめが高専祭である。まだ本校主催のロボコンは終わっていないが、しばらく深まりゆく秋を満喫したい。

有明高専だより 第87号

平成7年11月15日

編集

有明高専広報委員会

発行

有明工業高等専門学校

〒836 大牟田市東萩尾町150

TEL 0944-53-1011(代)